

大切なのは行動すること

佐藤 直子



私は15歳から、海外に出るチャンスに恵まれました。プロテニスプレーヤーになってからもフレンチオープン、ドイツオープン、イタリアオープン、ウィンブルドン、スイスオープン...というように20年間に渡って世界を1週間、または2週間ごとに転々とし、日本に全く帰らない年もありました。世界の国々を回り、また世界各国の友達(選手達)と暮らしているうちに、時間的観念、金銭的観念、ものごとの捉え方など、その他いろいろな面で世界には価値観の違う沢山の人種がいることを実感しました。はじめは私も日本的な価値観を相手に押し付けて、相手の不誠実な態度を不愉快に感じたこともありました。でも、すぐ、そのようなことで不愉快な気持ちになる前に、相手の国の価値観を理解し、お互いに歩み寄って楽しく生きることの方が得策だということに気がきました。

例えば何事も冗談ばく捉えたがる国民性、何事も生真面目に捉えたがる国民性、時間をいい加減に考える国民性、相手を傷つける気持ちはなくても真正面から相手の非を指摘する国民性...。いろいろ分かってくると、こちらの心にもそれに大きく対応できる余裕が生まれてくるというものです。

国際交流はとても大切だと思います。私は世界中に友達がいるので、世界のどこで戦争があっても、テロがあっても、切実な問題です。あまり外国の方々と縁のない方は自分とは関係のない遠い出来事、映画の中の出来事のように、比較的気楽に外国の事件を捉えることがあるようです。国際交流を盛んにして、どの国の国民も同じことに悲しみ、同じことに幸せを感じることを知れば、きっと力づくで自分の価値観を相手に押し付けようというぶつかり合いはなくなるはずですよ。

国際交流というと、すごく難しいことのように感じます。しかし、国の枠を超えて人と人とが触れ合うこと、例えば海外旅行をして現地の方々と会話をしたり、日本を訪れている外国の方に道を教えたり、電車の切符の買い方を教えてあげる。そのような小さなことも国際交流でしょう。日本人は恥かしがりやで(比較的凶々しい私でさえ!)ついそういうチャンスを逃しがちですが、勇気を持って国際交流への一歩を踏み出しましょう!

私は世界中にいる友達(テニスプレーヤー)を繋いで、ある時期その国でNo1の選手だったその友達の政界・財界などの人脈も全部つなげて、世界の平和を勝ち取りたいと張り切っていた時期がありました。今は身近なことからやろうと、日本国内で「親子触れ合いテニス交流・体験」(文部科学省・子供夢基金)という活動をしています。何かこの原稿を書かせていただいたお陰で、これを世界に広げて国際交流の橋渡しでもやりたいなという気持ちになってきました。

近年、「『英語が使える日本人』の育成のためのフォーラム」のパネリストとか、「これからの英語教育に望むこと」という講演の仕事があり、その中で国際交流の大切さを考える人が多くなってきていることを感じました。ただ問題は一人一人が「行動する」かどうかです。その点、私と幼馴染の今西淳子さん(渥美財団常務理事)は勇敢です。彼女は子供の頃から優等生だったので、まさか今のようなはちゃめちゃな行動派になるとは思いませんでした。素晴らしいことです。

考えることは誰でもできます。大切なのは行動するかどうかです。

(ナオコ・カンパニー代表)